

# 牛久：学校周辺に見る自然

第63号

ひたち野みずべ公園(ひたち野うしく小)

2021年3月17日発行

＜ 野鳥は冬でも活動している ～留鳥りゅうちょう ＞

ひたち野うしく小4年生と歩いた、冬のみずべ公園。今回は、1年中同じ地域ちいさにいる留鳥りゅうちょうです。



地面をつついて、エサを探すムクドリ(上)。  
人が近づくと、木の上などに逃げる(中右)。  
成虫越冬のクビキリギスつかを捕まえた(下)。

まず目についたのは、地面をしきりにつつくムクドリでした。何だか、当てずっぽうにつついていているように見えますが、においとか感じとっているのでしょうか？ 以前、ミミズつかを捕まえたところを目撃したことはありますが、この日は成虫越冬のクビキリギスつか(褐色型)を捕まえて食べているところをたまたま写すことができました。



おなじみのヒヨドリも、いつものように「ヒーヨ ヒーヨ」とやかましく鳴いていましたね。  
木のかけや枝にとまり、様子を伺うヒヨドリ。



冬になると羽が灰色になるハクセキレイ（左上）。  
でも、黒みの強いものもある（右上）。  
セグロセキレイは一年中背中が黒く、ほおもまっ黒（下）。

ハクセキレイとセグロセキレイもいました。  
ハクセキレイは冬には灰色っぽくなるので、やや見  
分けやすくなりますが、それでも時々黒みの強いのも  
いて間違えられることがあります。確実なのは、  
顔の目の下、ほおの部分<sup>ま</sup>がまっ黒ならセグロセキ  
レイ、白い部分があればハクセキレイです。



地面をつついてエサを探スキジバト（左）。おたまじゃくしの池では、羽をふくらませ、乾かしていた（右）。

キジバトも、しきりに地面をつついていました。でも、なかなかエサは見つからないようでした。  
春にヒキガエルのおたまじゃくしでまっ黒になる池では、羽を大きくふくらませて乾かしていました。



スズメが群れて枝にとまっていたので写真と撮ったら、ホオジロが1羽まじっていました。  
色合いが似ているからでしょうか、時々いっしょにいるのを見かけます。  
スズメの群れに、ホオジロが1羽まじる。

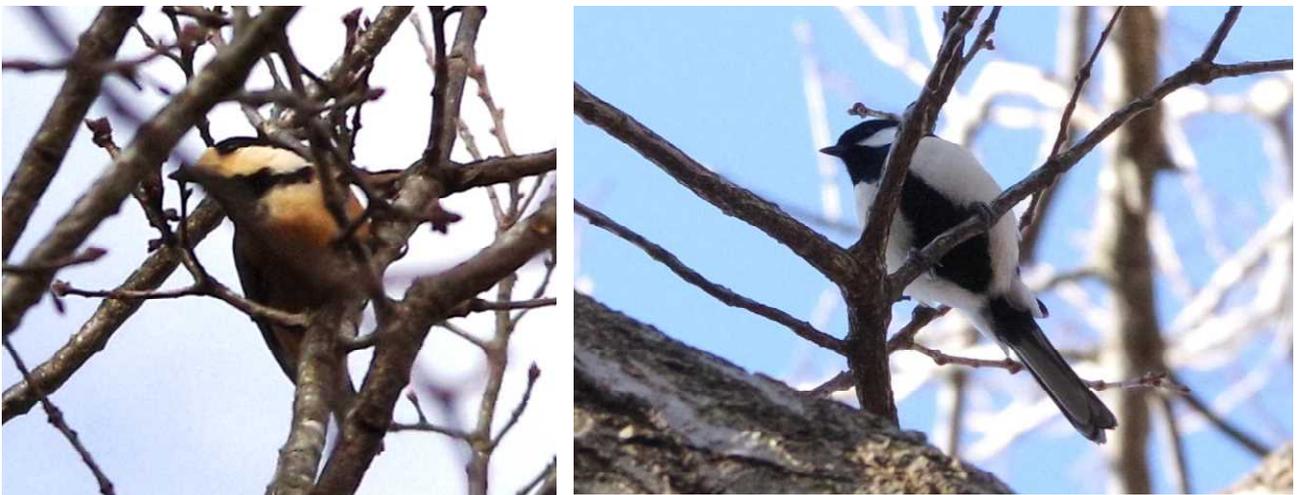


えだの中を群れ飛んで、しぐさがかわいらしいエナガ。

林に入ると、エナガが群れ飛んできました。小さくてしぐさがかわいらしい、私の好きな鳥の一つです。群にはよく、シジュウカラやヤマガラ、メジロなどがまじっていることがあります。



エナガの群にまじっていたメジロ（左）。シラカシの枝にもぐっていたメジロ（右上）。こわれた巣（右下）。



エナガの群にまじっていたヤマガラ（左）とシジュウカラ（右）。



枯れたヨシなどの茎をつついて、エサの虫をつかまえるシジュウカラ。

池のまわりの枯れたヨシには、シジュウカラが数羽やって来て、茎をつついて虫を食べていました。



池の枯れ草の中には、カモがよくかくれています。くちばしをかくして丸まっているので、ヒントを出してもなかなか見つけられませんでしたね。でも、1羽見つけると、次々と見つけられました。

この中に、3羽のカルガモがかくれています。

さて、わかりますか？

くちばしをかくして丸まっています。



カルガモは、みずべ公園の池では、一年を通して一番よく見かける鳥でしょう。いつもだとカワウもよくいっしょに見られるのですが、この日はいませんでしたね。池を泳いだり、陸に上がって草のタネなどを食べていることもありますが、人が近づくと、飛んで逃げます。

人が近づくと、飛んで逃げるカルガモ。



むれ およ  
池を群て泳ぐカルガモ。



けいかいしん  
警戒心の強い、バン。なかなかちかよ近寄らせてくれない。



さて、今回もいろいろな鳥が見られましたね。毎年、少しずつ見られる種類しゅるいが変わります。何が原因げんいんなのでしょう？それぞれの鳥が、どんな場所でどんな生活をしている鳥なのかを調べると、分かってくるかもしれませんよ。調べて分かったことがあったら、教えて下さいね。待っています。 【理科支援員：宮内】